

日本海北部スケトウダラ魚群分布調査結果

平成 27 年 9 月 7 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場・中央水産試験場
(連絡先：稚内水試 美坂 0162-32-7166)

- ◎魚探反応量は前年の 1.5 倍，特に武蔵堆西側で高かった
- ◎魚群の主体は尾叉長 32 cm 前後の 3 歳魚（2012 年級群）
- ◎尾叉長 35 cm 以上の大型魚は主に武蔵堆西側の深みに分布

1. 調査概要

道西日本海の雄冬岬以北海域において，2015 年 8 月 21 日～26 日に試験調査船北洋丸により，計量魚群探知機 EK60 および着底トロール網を用いてスケトウダラの魚群分布調査を行いました。

2. 魚探反応量：武蔵堆西側で大きな反応，全体では前年の 1.5 倍に増加

スケトウダラの魚探反応量（NASC）の分布を図 1 に，魚探反応量の推移を図 2 に，魚探ライン西端における 300 m 層水温の推移を図 3 に，魚探反応量の大きかったラインの魚探画像を図 4 に示します。

例年と同様に，武蔵堆の東西（ライン C）や小樽堆周辺（ライン F）では反応量が大きく，特にライン C の武蔵堆西側水深 300～400 m における反応量は極めて大きくなりました。ここ 3 年の反応量は全体として増加傾向となっており，今年の全ライン平均 NASC は前年の約 1.5 倍となりました。

また，魚探ライン西端における 300 m 層水温は 1.0～1.4℃の範囲にあり，ライン A～C とライン F では前年より低くなっていました。

3. サイズ組成：尾叉長 32 cm 前後の 3 歳魚（2012 年級群）が主体

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 5 に示します。

近年では高豊度と見られる 2012 年級群は 3 歳魚となり，魚探反応量の大きかった武蔵堆西側や小樽堆西側では採集物の主体となっていました。ただし，2012 年級群はまだ尾叉長 32 cm 前後であり，大半は未成魚であることに注意が必要です。

武蔵堆西側の水深 300 m 以深では，3 歳魚に混じって，主要な漁獲対象となる尾叉長 35 cm 以上の大型魚（4，5 歳魚主体と推定）も採集されました。また，武蔵堆東側の陸棚斜面では，尾叉長 8 cm 前後の 0 歳魚（2015 年級群）が 2012 年調査に次いで多く採集され，採集尾数は過去 2 年を大きく上回りました。

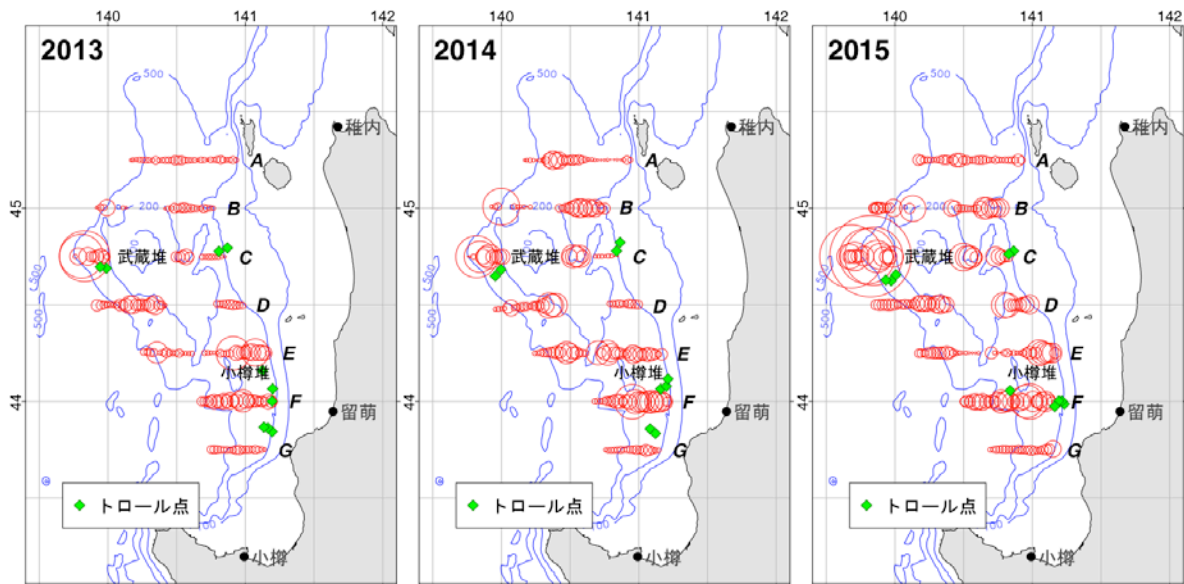


図 1. 魚探反応量 NASC の分布（水深 200 m 以深）とトロール点の位置。
 NASC:1 平方マイルあたりの魚探反応量で分布量の指標になる。

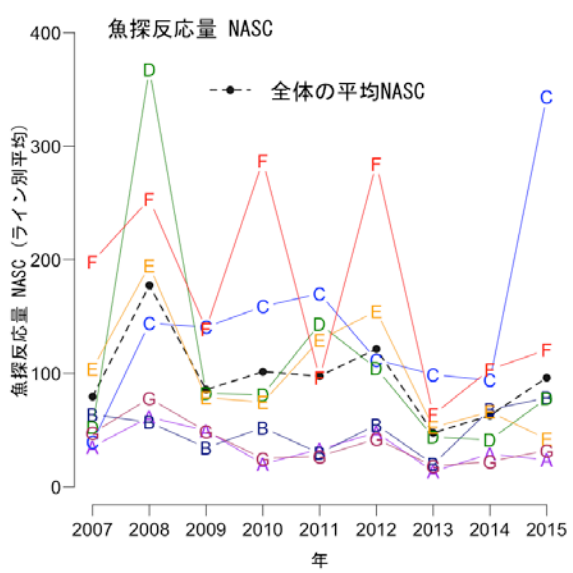


図 2. 魚探反応量 NASC の推移
 (水深 200~500 m の平均).

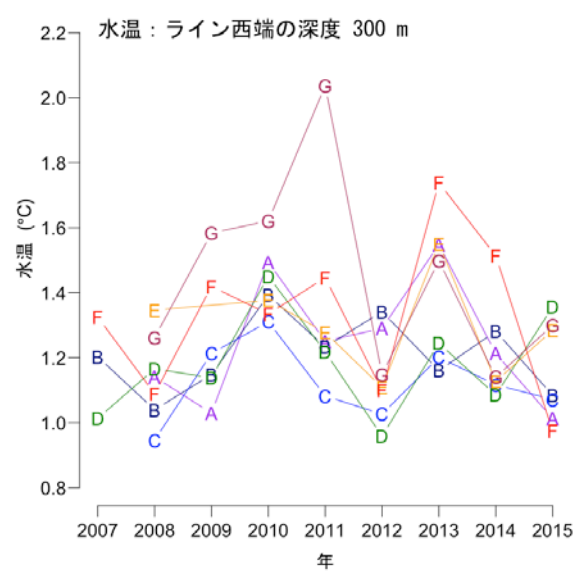


図 3. 魚探ライン西端の深度 300 m
 における水温の推移.

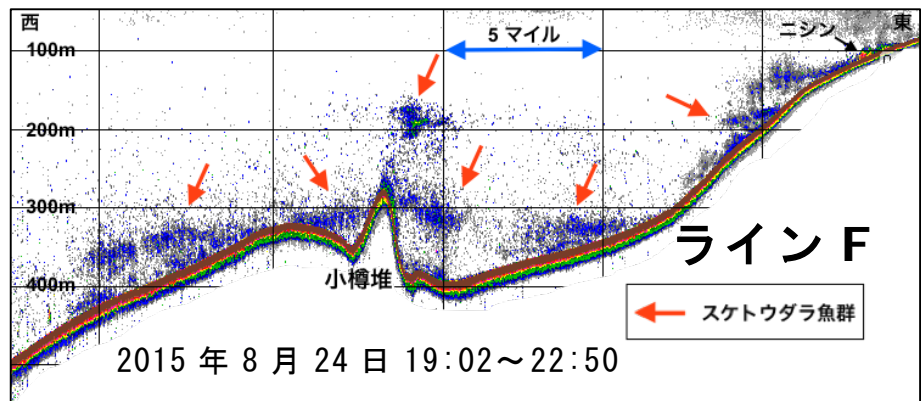
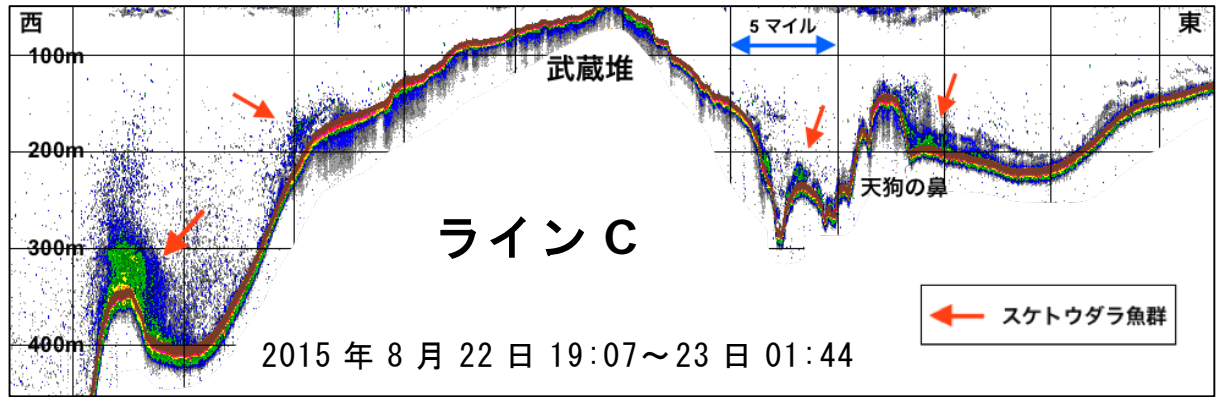


図 4. 魚探反応量の大きかったラインの魚探画像（エコーグラム）。

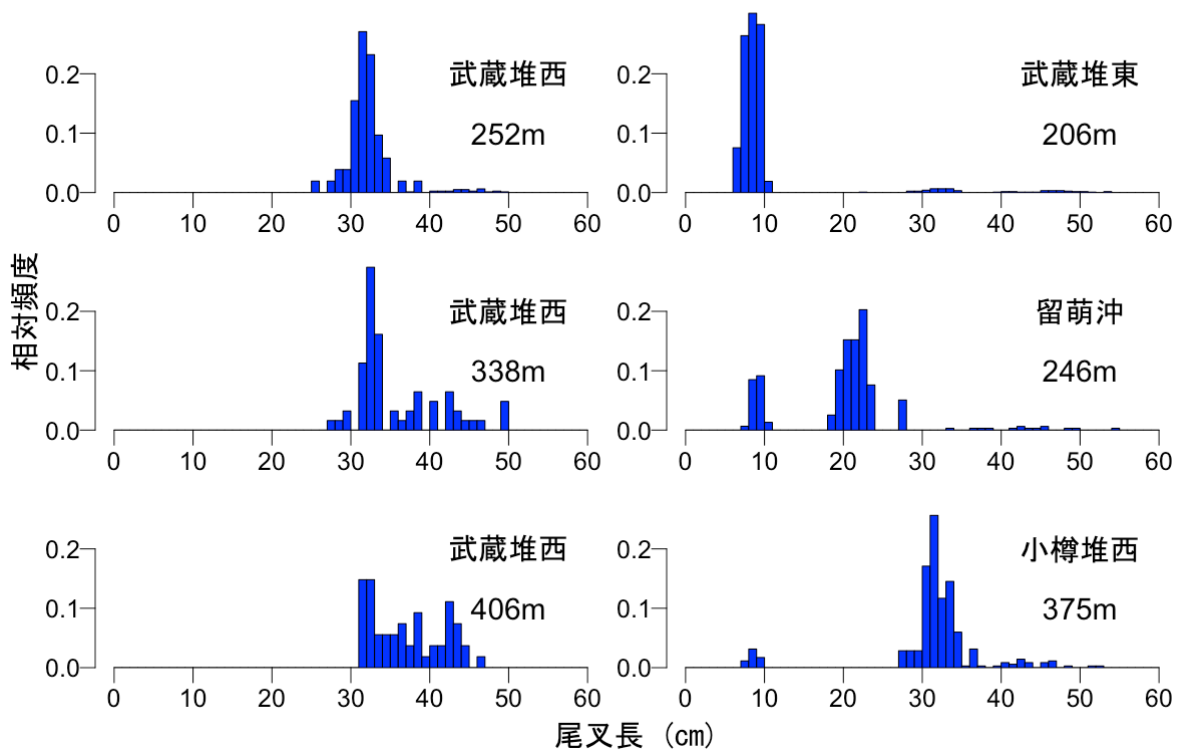


図 5. トロール調査で採集されたスケトウダラの尾叉長組成。